

とくじらとうこうかじば

徳次郎刀工鍛冶場跡

室町時代から江戸時代初期にかけ、中世の古道が開けていたこの地に、守勝を始めとする刀工たちが名刀を鍛えた。

徳次郎は下野刀工発祥の地とされ、名立たる刀工は守勝のほか重勝、勝広、宗勝、定勝、信勝など、30余名を数える。特に守勝は初代から5・6代続く、代表的な人物、系統であり、



刀の鍛えは沸出来の純然たる相州そうしゅう（現在の神奈川県）伝である。その優秀作は師匠の広光に匹敵し、名匠正宗にも迫ることから、別名「徳次郎正宗」の名がある。まさむね

この辺一帯は古くから「カジウチ」とも呼ばれ、鍛冶神が祭られていた。昭和55年、鍛冶神を守ってきた館野照氏が、私有地に社殿を立派に修復し、新たに守勝神社として整備した。鍛冶神を守った神社は、県内唯一である。



富屋地区まちづくり連絡協議会 令和2年建立